

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	東広島市立磯松中学校		
学校長氏名	竹原 弘長	栄養教諭氏名	大重 千織
職員数	32名	児童・生徒数	365名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・給食の残食が多いクラスがある。
- ・弁当DAYにおいて、自分で作らない生徒がいる。
- ・朝食欠食の生徒が6%，朝食内容に課題がある。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

成果指標：健康の増進とたくましい体を育てるため、「給食を残さない」生徒を目指す。

目標値：90%以上

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 給食の時間の充実

目的 食に関する知識と食を選択する力を育成し、健全な食生活が実践できる生徒を目指す。

内容

①ランチルーム給食

各クラス1回、ランチルーム（被服室）で配膳し、班で会食

食の話・・・1年生：学校給食の始まり，2学年：成長期の食事，3学年：和食「だし」

進行は、各クラスの給食委員会の生徒

給食センターの職員（所長，調理員等）の参加を依頼

②給食委員会活動

スムーズな給食準備や片づけのための係り活動

給食時間の放送（今日の給食について、配膳や返却に伴う決まりの啓発など）

【取組2】（テーマ） 作って！食べよう！弁当DAY！

目的 ○生徒自身が弁当を作り，学校で一緒に食べることを通して，食べることの大切さに気づき，生きる力の向上を図る。

○地産地消にかかわる知識・理解を深め，家族や地域への感謝の気持ちの育成を図る。

内容

第1回（6/12）にむけて 1学年 学活「お弁当作りのポイント」

第2回（9/12）にむけて 全学年

第3回（10/16）にむけて 全学年 学活「弁当DAYにむけて弁当づくりの計画を立てよう」

弁当の写真を撮り，ワークシートにアピールポイントなどを記入し交流

東広島市弁当コンテスト（11/25開催）の出場者の選出

第4回（3/12）にむけて 1年間のまとめの弁当作り



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

ひろしま給食100万食プロジェクトに応募

↓ 家庭科で既習したスキルを使って、ゴールデンウィーク中の課題として応募（全校）
（平成29年度統一メニューの決定）

↓ 校内掲示

ひがしひろしまお宝レシピの募集

↓ 県内統一メニュー「熱く燃えろ!!Cスープ」にあうメニューの募集
↓ 東広島市教育研究会栄養士部会にて選定、試作を行い、決定



広報・啓発

- ・文化祭展示（料理展示し、レシピ配布）
- ・食数把握 校内2箇所に、作った回数と食べた食数をはるコーナーを設置し食数を把握
- ・職員で、ひろしま給食を調理し、会食
- ・生涯学習フェスティバル（東広島市）で、給食で提供した「ひろしま給食」や「ひがしひろしまお宝レシピ」の展示とレシピ配布

5 取組に対する成果と課題

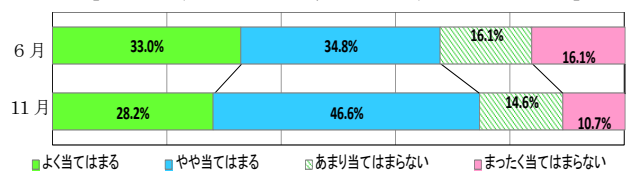
【成果】

- 教室とは違った場所でのランチルーム給食を実施することで、給食を通して「食」への関心を持つことができた。
- 給食委員会の生徒たちが、給食の準備や返却について、全校生徒に周知徹底するにはどのようにしたらよいか考え、自主的に活動することができた。
- 「ひろしま給食」に応募することで、既存の学習を活用して考えさせることができた。企業による特別賞に2名が選出された。

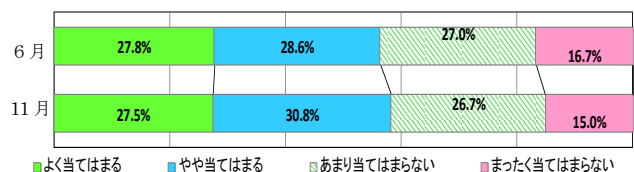
【課題】

- 給食の残食は、2%くらいであるが、主食や副菜に於いてのやり取りが見られる。
- 弁当DAYでは、回を重ねることで、自分で作るという主旨が希薄になったようである。
- 朝食欠食者は、固定化しているが、朝食の内容は、42%が十分ではない。

【嫌いな食べ物が出た時、残さず食べていますか？】



【主食・主菜・副菜のそろった朝食を食べていますか？】



6 今後の取組に向けた改善方策について

- 「給食を残さない」とはどういうことか、指導の具体を提示し、一貫した取組にする。
- 弁当DAYの実施について、「自分で作る」ことを重視し、家庭科の学習とつながるように計画の見直しを図る。
- 生徒自身が、食の目標を持ち、実践につながるように食に関する指導内容の検討や教材開発をする。